

## 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2471000253		
法人名	社会福祉法人 長茂会		
事業所名	グループホームわらべ		
所在地	三重県尾鷲市大字南浦古里の上4689-1		
自己評価作成日	令和 6 年 2 月 17日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2471000253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2471000253-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年 3月 27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然に囲まれた環境の中にあり、居室からは尾鷲湾を一望でき、季節の移り変わりを感じることができます。気分転換に外に散歩に出かけたり、町からは離れている為、車でのドライブなどで地域との繋がりが途切れないように心がけています。施設内でも行事を充実させて、楽しみのある生活を送っていただけるように力を入れています。また家族には面会やお電話やお手紙など写真も付けて毎月お知らせしています。利用者や家族が安心して生活していただけるよう支援していきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

グループホームわらべは、尾鷲市街から車で5分程度離れた場所に位置し、尾鷲湾を一望できる風光明媚な場所にある。ただし、付近には人家が少ないため、グループホーム職員は、利用者との地域の係わりをどう構築していくかを常に考えている。受診で出かける際には帰途に利用者の馴染みの場所に寄り道などして今までの思い出深い場所や人との関係を保持しようとしている。法人としても、そのことを重要な取組みとしており、夏祭りや運動会を通して、地域の人を呼び込み、地域との関係性を積極的につなげる取り組みを行っている。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員間で共有に努めており、個別ケアに力を入れている。理念「家庭的な雰囲気大切にしながら個々に合わせた生活が送れるように支援します」	理念は、事務所内に掲げられ、毎朝の朝礼で唱和し意識するように努めている。職員は家族的な対応をして、利用者には家庭のように過ごしてもらうことを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナや感染予防対策に気をつけて、外出支援をし地域とのつながりが途切れないように支援している。	地域交流運動会や行事活動を通して地域との交流を図っている。地元の祭りでは、子供踊りの一行が、ホーム前の道で来て演技を披露してくれたり地域からの暖かい支援も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、地域代表の方々と話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政やサービス等の報告及び予定、防災関連や地域の情報交換なども行い、相互協力を図っている。	会議ではホームの活動状況の報告後、その内容に応じて、行政的な助言から、また、地元の方からは町の様々な情報まで幅広く色々と教えてもらい、サービス向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村や広域連合はもちろん、社協、包括、民生委員、老人会などの方々とともに協力関係を築くよう取り組んでいる。	推進会議の場を通して連携が密である。小学校の体育館を借りて法人の施設利用者や地域の老人会の方を中心に地域の方と一緒に交流運動会や夏祭りを開き、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の排除マニュアルを作成し、研修会を開催している。日中は施錠を行わず、のびのびとした生活ができる環境を提供している。	現在、身体拘束の事案はないが、定期的に身体拘束に関する会議は開き、拘束に関する資料に基づいた研修を積み、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修会を開催し、職員の意識向上に努めている。身体的虐待もちろん言葉による精神的虐待についても職員同士が注意しあい、防止に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	実際に権利擁護を受けているご利用者を受け入れ、実践を兼ね、権利擁護についての必要性を学び活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、利用者及び家族の方々に十分な説明を行う事で理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は日常的に聞き入れる他、面会やお電話などを通じ取り上げている。また法人内の苦情解決委員会や玄関に意見箱を設置するなどし、反映している。	毎月手紙でホーム内の様子を伝えるための記事や写真を送付している。また、面会時は、より詳しく説明し家族からの意見を求め、利用者処遇の向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の申し送り、連絡ノートなどを活用し、意見や提案をかわし、運営に反映している。	毎日の朝礼や月に一度の職員会議以外にも、日常的にも職員からの意見を求め、処遇面に反映させている。また、気づいたことは、連絡のノートに記載し、情報の共有に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務割り当てや休暇願いなど、柔軟に対応している。また職員から出たアイデアや提案を会議にて検討することにより、やりがいや向上心を持って働ける職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や希望があれば、研修を受けられる機会が確保できるように努め、資格の取得を行えるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域の同業者との関わりを持つことにより、意見交換や困難事例などについて話し合い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り多くの要望や情報を聞き取り、コミュニケーションを大切にし、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の希望や家族の思いを取り入れ、介護方針を決め共有している。また面会や電話、手紙などを通じ信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の心身の状況や希望を踏まえ、必要なサービス内容を本人と家族で決定できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合わせた生活が送れるように、利用者の生活リズムを把握し、支え合いながら生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会などで家族が気軽に面会できる雰囲気作りに努めている。毎月の近況報告により、新しい情報の共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生まれ育った地域へのドライブや訪問により、馴染みの場所や人との関係が途切れないように努めている。	受診帰りに本人の馴染みの場所や出身地に立ち寄ること。家族との墓参り。職員は家族の協力も得つつ、利用者が馴染みとの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどを行う際においても、利用者同士で世話役と世話をしてもらおう方との関係の構築が上手くできるように職員が配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後についても、家族や病院、施設などからの相談にはその都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、希望、意向の把握に努め、本院との日常会話や面会の方々との、意見交換により、集めた情報から本人の視点に立って検討を行っている。	意向を言語表現できる方は、日常的な会話の中から、表出できない方は日頃の様子や家族から情報を頼りに本人の思いや意向を探り、把握することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実際に長年使用されていた馴染みの物を持って来ていただき、使用してもらっている。面会に来られた知人や家族、友人の方々からの情報を多く得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムの把握、毎日のバイタルチェックによる健康管理、また申し送りノートや個人記録の活用により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や変化を把握し、家族との定期的・随時の連絡で得た意見を反映し、全職員が対応を話し合い、介護計画を作成している。	職員会議、担当者会議、朝礼を含め全職員で知り得た情報を出し合い、共有して介護計画を作成し、家族にも説明している。遠方に住む家族には電話や手紙で説明し、意見を求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録を残すことにより、それをもとに気付いたことや改善方法などを話し合っている。また申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院への送迎及び付添いや、興奮時の気分転換を兼ねた外出など、その時のその方に合った支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防に配慮しながら、近隣への展示会を観に行くなど地域資源の活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じたかかりつけ医や協力機関を利用し、適切な医療が受けられるように支援している。	本人や家族の希望されるかかりつけ医や協力医療機関の利用を支援している。受診の際には、職員が同行してホームでの状況について、必要に応じてはバイタル記録も持参して説明して適切な診療に協力している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の非常勤看護師の他、併設施設や同法人の看護師と連携し、助言をもらいながら適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	服薬情報や個人情報などを個々にファイリングし、緊急時や入院時の情報提供に活用するなど、利用者や家族が安心して治療できるように努めている。面会時やお電話、カンファレンスへの参加などで情報の得て、退院後の施設対応の準備も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設の方針や対応できる範囲について説明し、了解を得ている。本人、家族の意向を聞き、職員全員で方針を共有している。家族と連絡を密にとり、医療機関と連携しながら終末期に支援に努めている。	入居の際にターミナルケアまでの契約をおこなっているが、本人の状態の変化に合わせて医師や家族と相談し、本人にとって何が望ましいか話し合い、ケア方針を決めている。基本的に食事を取れるうちはホームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故緊急時対応マニュアルを作成し、会議にて定期的に話し合い及び訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練に加え、法人全体の訓練も行っている。	月に一度訓練を行い、夜間を想定した訓練も実施している。また、食料・水等の備蓄は一週間程度準備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライバシー確保の為、排泄誘導などは耳で声かけを行っている。また失敗や不穏行動時などにも、寄り添いさりげないケアを心掛けている。	排泄誘導の際や失禁等の際には、さりげなく声掛けし、部屋や便所に誘導するようにしている。利用者同士のトラブルの際には、部屋替えや食事の席替え等により対応し、頭ごなしな説法はしないように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思表示ができない方に対しては、個別に面談し、表情やささいな行動などに目を配るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの嗜好に添った生活支援ができるように、体調やその日の気分を考慮した上で、声かけや見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装や散髪支援、衣類など買い物への支援などを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前・食後のうがいや、配膳、後片付けなどできる範囲での手伝いをお願いしている。また本人の好き嫌いを把握し、食事に対応している。行事の際にはクッキングを取り入れ、一緒に調理などを行っている。	食前のテーブル拭きや盛り付け、食後の片付けにも職員と一緒に参加している。食事の摂取スピードも様ざままで、一人ひとりのペースを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるバランスの取れた献立になっている。また食事中的見守りや介助やはもちろんの事、咀嚼の状態に合わせたキザミやソフト食などの対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後のうがいや食後の歯みがきを促進し、声かけや介助を行っている。自分で口腔ケアが困難な方には、職員が支援している。また定期的な入れ歯洗浄もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを把握し、定期的に誘導を行っている。トイレにて気持ちよく排泄ができるように支援している。	トイレでの排泄を基本として、昼間はおおよそ2時間を目安にトイレ誘導を行っている。夜間は、部屋に設置したポータブルトイレに誘導し、排泄自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録による管理を行っており、水分量の調整や運動不足の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴ができるように心掛け、声かけを行っている。また菖蒲湯やゆず湯など、季節感を感じられる入浴方法も取り入れている。	月曜から土曜日までの午後に入浴が基本であるが、拒否する方には無理強いせず、翌日に変更するなどの対応をして、満足感ある入浴となるよう心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合った生活が送れるように支援している。また夜間眠れない時には、職員が寄り添いお話を聞いたり、お茶などを飲んでいただき安心して休まれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者全員の服薬説明書を薬手帳に添付している。また個別にファイリングするなどして、緊急時の対応に備えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの有する力を把握し、日常生活において、その方ができる役割りを見つけて過ごしていただけるよう努める。またレクリエーションなど自分で選び、楽しめるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	交通量が少なく、自然に囲まれた環境を活かし、気候の良い時期には散歩にでかけている。家族との外出や職員とドライブなどにいく機会を設けている。	ホーム周囲の散歩や家族との外出、ドライブ等に意欲的に取り組み、外出の機会を増やすことに努めている。何よりも外に出ると利用者の表情が良いので、今以上にその機会を増やしたいと考えている。	天気の良い日には、全員が何らかの形で外に出ることを日課とするなど検討されたい。洗濯物干し、駐車場から尾鷲湾の絶景を眺める、付近の散歩等戸外活動を増やすことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族と相談したうえで、所持していただき、買い物や病院受診の際に使用している。金銭管理が困難な方は事務所の金庫にて保管し、必要に応じて出金を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を聞きながら、電話や手紙は自由に行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、皆で作った季節感ある自飾り付けなどをし常に清潔であるように心掛けている。また居室においても、個別に好みの温度で過ごせるよう支援している。	廊下、食堂、玄関ホール等には、季節を感じさせる壁画が飾られていた。室内はエアコン、加湿器、空気清浄機、また、窓の開閉等で換気されていた。利用者もモップ掛け等出来ることには参加し、自ら居心地よく過ごせる取り組みも行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、3人掛けのソファや肘置き付きの椅子、マッサージチェアなどお気に入りの場所で自由にくつろいでいただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には自宅で使い慣れた馴染みの物や写真などを飾り、本人の状態に応じ本人や家族と相談しながら、希望に添った配置を心掛けている。	自宅で使っていたタンスや衣装ケースを持ち込み、自宅に近い環境を用意し、安心して生活できるよう配慮されていた。また、整理整頓され、すっきりとした生活しやすい居室で居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの能力に合わせ、食堂やトイレにまでの距離に配慮した部屋割りができるように努めている。また居室内の家具の配置においても、本人が安全で自立した生活が送れるように工夫している。		